

床見切

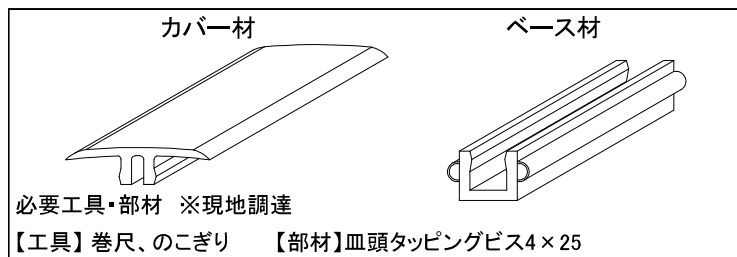
施工要領書

このたびは、フクビ「床見切」をご採用いただきまして有難うございました。
下記の施工説明をよくご覧の上、正しく施工を行ってください。

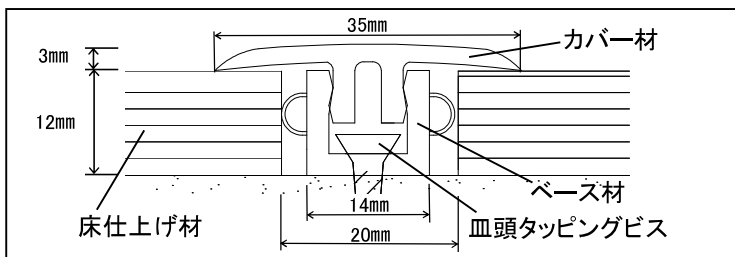
設計施工上の注意

- 本製品はカーペットなどの沈み込みが発生するような仕上げ材には使用できません。
- 厚さ12mm程度の仕上げ材にのみ使用できます。
- 下地の不陸が1mmを超えるところには使用できません。
- ベース材の取り付け部分には15mm～20mmの隙間を空けてください。20mmより広いとカバー材が割れるおそれがあります。
- ベース材と床仕上げ材の高さは合わせてください。ベース材の方が低くなる場合はスペーサーなどで高さを調整してください。
- 保管の際は、直射日光を避けて平らな場所に平置きしてください。立て掛けると製品が変形するおそれがあります。
- 取り替えなどでカバー材のみを取り外す際は、製品の左(右)端部にヘラ等を挿し込み、持ち上げるようにして外してください。
- 清掃の際は、酸性洗剤を使用しないでください。劣化、変色の恐れがあります。中性洗剤もしくは水拭きにて清掃してください。

■使用部材



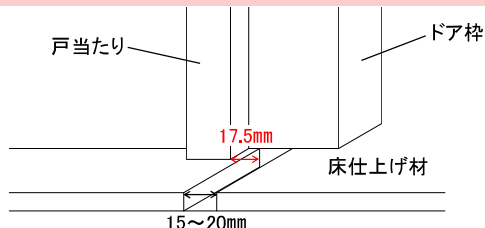
■参考納まり図



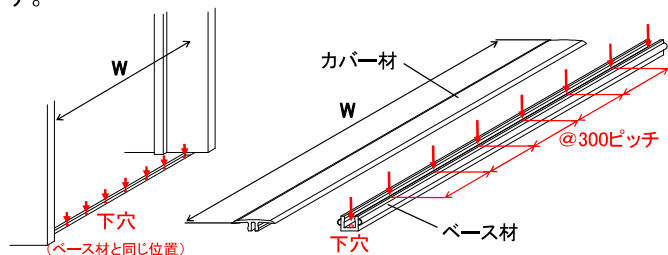
施工手順

①床見切の取り付け幅15～20mmの隙間を空けて、床仕上げ材を施工します。

※この際、ベース材は戸当たりから17.5mmの所に中心がくるように施工して下さい。17.5mm以下になると、カバー材が戸当たりと干渉するため、施工出来ません。



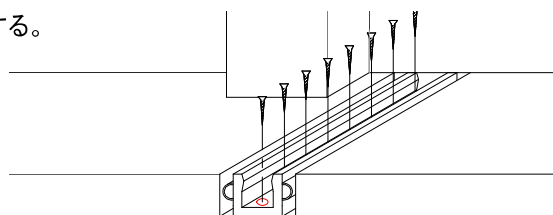
②カバー材とベース材の長さを、ドア枠の内寸法に合わせてカットします。



③ベース材及びベース材を取り付ける下地材(①で20mm空けた隙間)の、両端及び中間部は300mmピッチの間隔で下穴を空けます。

※鉄骨下地の場合はφ3.7鉄板用ドリルを使用して、コンクリート下地の場合はφ3.7コンクリート用ドリルを使用して下さい。

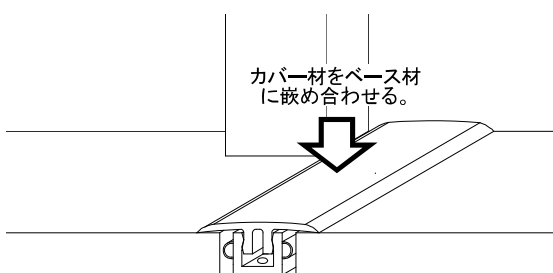
④下地材にゴミやほこり(凹凸等)がないかを確認します。ベース材を下穴に合わせてセットし、下穴に合わせて皿頭タッピングビス4×25で固定する。



※鉄骨下地の場合は鉄板用ビスを使用して、コンクリート下地の場合はコンクリート用ビスを使用して下さい。

※ベース材と床仕上げ材の高さは合わせてください。

⑤ベース材が下地にしっかり固定されたことを確認してから、カバー材をベース材にしっかりと嵌め合わせます。



※カバー材に浮きが無いことを確認してください。

